

取組事例 妊娠期から子育て期まで、切れ目のないサポート提供

(羅臼町)

羅臼町では、令和3年度より妊娠期から子育て期までを安心して過ごせるよう、切れ目のないサポートを提供する羅臼町子育て世代包括支援センターを開設。また、子育て世帯の医療費負担を軽減するため、高校生までの医療費を無償化し、子育て世帯を支援することで、移住・定住人口の増加を図る。

関連数値目標・KPI

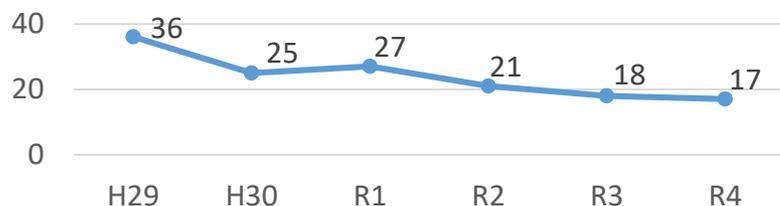
	基準値 (R元)	実績 (R4)	目標値 (R6)	進捗率 (%)
相談件数	0	97	30	323.0
無償化条例	未制定	制定	継続	継続
移住体験による 移住者数	2	0	3	0.0

取組の推進体制

役場保健福祉課内保健部門に子育て世代包括支援センターを設置。もともと保健、福祉、子育て、子育て支援センターが同一課内に配置されていたが、立ち上げを契機により一体的な支援を強化。

身近に産科・小児科や助産所等がなく社会資源が少ない当町において関係機関と連携を強化し創意工夫によるサポートを実施。

出生数の状況



出生数は減少傾向であるが、一人ひとり丁寧に
関わりニーズに合わせた細やかな支援を実施。

取組事例 保健、福祉、子育てとの連携強化

子育て世代包括支援センター設置

○主な実施内容と効果

- ・妊娠期に2回、保健師が話しセルププランを作成、すべての妊婦の状況を把握。
- ・月1回、保健・福祉の専門職で妊産婦支援検討会を実施し、特定妊婦等ハイリスク妊産婦への支援を検討。
- ・地区担当保健師が妊娠期から産後、子育て期まで継続的に支援を実施。関係性の構築によりタイムリーで具体的な支援が可能。
- ・母乳育児産婦が産後に利用しやすいようケースによって助産師訪問を実施（産後ケア事業の充実）。
- ・子育て支援センターとの連携（隔月で計測の日、乳幼児健診・2歳児相談に保育士の従事、子育て支援ガイドの作成等）
- ・子育てネットワーク会議（年2回）に参加し、子育て世代包括支援センターの活動等を周知。
- ・図書館司書との連携（妊娠期に絵本作り教室、乳児相談にブックスタート事業）により、絵本からの親子の関わりを応援。

子ども医療費助成(令和4年8月から開始)

○主な取組

- ・高校3年生までの子どもが医療機関に受診した際にかかる医療費のうち自己負担分を全額助成する

○助成方法

- ・医療機関受信時に受給者証を提示
- ・医療費助成に対応していない医療機関を受診した場合は、領収書等で確認し支給

○実績（令和4年8月～令和5年3月） 延1,920件 31,534千円助成



主な成果

元々、母子保健事業に取り組んでいたが、連携体制を見直す機会となり、保健、福祉、子育てとの連携強化につながり、相談に対しより丁寧な対応が可能となった。